

第1回市民ワークショップ 事後アンケート結果

以下、参加者の事後アンケートを取りまとめたもの(順不同)

Q1:このワークショップに参加して、よかったことを一つ教えてください。

- ・落ち葉の商品化の話からイチヨウの葉の性質(腐りにくい、防虫効果)を知ることができて面白い話をたくさん聞くことができた。皆さん植物の知識がすごい！！
- ・多くの方々と話ができ良かったです、様々な意見が聞けました
- ・案外、街路樹について、こうあったらいいなというポジティブな意見や、価値があると思われる方がいるということが分かって良かった(俺の木や街路樹の下を憩いの場にするとう愛着に繋がるなど)
- ・今後の街路樹の姿にポジティブな話が多かった
- ・若い方から高齢の方までの意見が聞けて勉強になりました
- ・街路樹のある場所にどう残していくか、ばかりに気を取られていましたが、シンボルゾーンの選定など、本当にその路線に街路樹が必要なのかを考えていくことも大事だと気付けたこと
- ・市役所や他大学の方々、市民の方々の意見を聞いて、意見交換をできたこと
- ・多様な意見を聞くことができて考え直すきっかけとなった
- ・道路維持に関して何より「安全性」が大事で、そのための管理なのだということが市の職員の意見として出てきて、それがまず共有できていないなと思いました。それが知れたのは大きい
- ・人生の先輩方から、街路樹についての知識、経験を教えて頂けたこと
- ・普段関わることのない方、話すことのない方と出会い、「街路樹」というテーマの下で話し合うことができた
- ・いろいろな意見が聞けた、街路樹は空間づくりにもなっている
- ・植える木、切った後の木の活用法、落葉の活用法、イメージは人それぞれあって面白いと思いました
- ・聴いて、話して、はき出して、スッキリするのがアイデア会議、楽しめた
- ・日頃の学生生活では出会うことができない多くの方と話をすることができて良い経験になった
- ・自由な発想にふれることができた。10年後の未来ということで、ドラえもんの話になって、ムクドリよけの秘密道具の具体的なギミックにつながっていった。きっとそういうこと大事だよと思った
- ・高校生をはじめ色々な分野の若い人の話が聞けたし、自分の経験を話すことができた
- ・多様な話が聞けて良かった、色々な意見を聞くことができ、勉強になりました
- ・行政側にいると維持管理の視点が強くなってしましますが、「樹木を残していきたい」という強い思いの方々と直接話をすることができたので、樹木の有効活用についてもっと調べてみたいと思いました
- ・自分の考えだけでなく皆さんが色々と考え、発想されていることがわかりました。今後も緑に関わりたと思います
- ・「街路樹」を景観としてとらえていたが、今日ラッパイチョウという1万本に1本くらいあるようないちようがあることを聞いて、「街路樹」だけど1本1本の木だと認識しなおすことができた。景観もちろん大事だけど、1本1本の木によりそって皆が考えていけばいいなと思います
- ・様々な観点から街路樹について考えている人がいて面白かった
- ・色々な考えを持っている人がいるのがわかりました
- ・街路樹についてたくさんを知っている人がいて、とても勉強になった。管理されている所、されていない人がいることが分かった
- ・多くの人の話が聞けてよかった、いろんな人の経験からくる様々な御意見を聞けたこと

Q2:あなたは、熊本市の街路樹のある風景は30年後どのようなようになって欲しいですか？

- ・木に関わる人が増える、木のことを考える、維持するための仕組みが始めから終わりまで充実している
- ・維持する場所、撤去する場所などメリハリのある「杜づくり」ができていて欲しい
- ・1箇所でも新しい街路樹に関する取り組みができて、取り組みの広がりが見られると良いなと思った
- ・その時々の方々の声とともに共存している姿
- ・街路樹の数ではなく、緑被率(目標)を決めて、30年後を目指す
- ・全ての街路樹に家族の名前を入れて管理してもらう
- ・安全、安心な通行ができ、安らげる場所がある街路樹のある風景
- ・放置されていないという状況が一番だと思っています、維持管理がされていて、樹木への愛着がわく風景だと思っています
- ・適材適所、保存するもの、更新するもの、撤去するものを選び管理が行き届いた街路樹の並ぶ風景を望みます
- ・その中に「我が家の木」があると良いなあとと思うし、街路樹を見る時に「これは誰の気なんだろう」というような感覚になれば良いなあと思う
- ・街路樹が人と人との出会い、交流の場になっていて欲しい
- ・人と街路樹が強制できているようになっていけばいいなと思う
- ・多様性が大切にされてきている時代でもあるので、街路樹の種類、植え方なども多様になればいいなと思う
- ・今と変わらず緑が多いこと、ずっと良くしようと思っていけること
- ・教育って、共育って、自然ではなく、人間が作った環境で過ごす
- ・街路樹のことをよく思わない人が少しでも減り、街路樹を誇りに思えるような風景になって欲しいと思う
- ・バイクツーリングが趣味なので、友達連れていけるようなカッコいい道路が増えてほしい
- ・今の再生計画では30年後も50年前と同じ。多分30年後も同じ議論をしているはずだ
- ・街路樹の考え方が違うので、木を植えればいいというものでもない。樹木の選定にもこだわってほしい
- ・クスノキ、ケヤキ、イチョウが減って多種の樹木がある風景
- ・今回のワークショップに参加していただいている方は、樹木が大好きで大切にしていきたいという方が多い印象でしたが、そういった人がもっと増えているといいなと思います
- ・魅力ある街路樹を念頭において、色々な工夫をこらした街路樹を作っていきたい
- ・市民1人1人が街路樹に寄りそうことができ、木と共生ができているといいと思います
- ・行政ではなく地域の方が維持管理で行う街路樹、愛着のある街になる
- ・魅力ある街路樹、市民が誇れる街路樹
- ・緑がいっぱいあるってことじゃなくて安全性の面だったり、管理のしやすい街路樹。街路樹→鳥のフンや落ち葉などの変なイメージそれを変えて楽しくプラスなイメージのある風景
- ・街路樹を植えるには、木のことを考えて幅を広くとる。3mはほしい
- ・市民から苦情が出ない笑顔がでてくる潤いある風景

Q3:あなたが考える、持続可能な街路樹マネジメント(街路樹育て)の課題はどのようなものですか？

- ・木のためのマネジメントが不足している。ゆとりある環境設備、木のサイクル、落葉
- ・木に関わる人へのマネジメント、体制が不足している。落葉集めのその後
- ・道路交通と併せてのマネジメントをどうするか
- ・街路樹を取り巻く人々(周辺環境・所有者・管理者)が前提や考え方を共有すること
- ・街路樹について「市が持っている木」ではなく、自分たちのものとして考えること
- ・コスト負担の多様化が必要、街路樹のオーナーシップが公共に偏りすぎている
- ・植物は管理費がかかるだけでなく、収益もあるもの(SDGs)
- ・アメリカでは3倍の収益があると考えられている(i-tree)
- ・市民で共有していければいい
- ・現在、守りたいと思える街路樹の風景が少ないこと(愛着が持てない)
- ・落葉を回収したあとの処理の方法→集めた落葉はどうしたらいいのか？廃棄という処理になりがちだけれど肥料として求めている市民もたくさんいる
- ・民間共同がどの程度の範囲に浸透するのか、どの内容まで任せることができるのか疑問がある
- ・一人一人では面倒なことも、できる事を少しずつ寄せ集めていけば可能な気がする、その「面倒」と「できること」の摺り合わせが一番の肝だと思う
- ・落葉の処理、高木の成長
- ・植えることが正義だということ、隙間があれば植えなければという考えが根強いこと
- ・みんなが参加してくれる、協力が得られること
- ・アイデアを出させない空気、活用できないシステム
- ・管理費と、だれが日常で樹に管理するのかという点
- ・落ち葉がゴミに見えないような、再生可能な宝物。ゴミだったらイヤなもの。その生産物はもっとイヤなものだから
- ・市全域一律ではなく、路線の性格に応じた植樹をはじめ適切な街路樹をきちんと議論する
- ・地域との連携で、市民の人たちができる事を一緒にやっていく
- ・地域、企業団体と連携したやり方を考える
- ・予算が変わらない(むしろ減ってきている)のに、今までと同じ管理の仕方をしていてもダメだよねというお言葉をたくさん頂きました。管理しやすい樹種にするなど、現実的な考え方も必要なのかなと思いました
- ・できるだけ伐採を限りなくやらない。伐採の植替え等を色々と考えなければいけない
- ・高木になってしまう樹種になっていることで、市民の関りが難しいこと。行政の管理費も高くなる
- ・景観をどう考えるか。維持管理の難しさ
- ・維持管理費が多くなる、落ち葉の処理
- ・落ち葉をどうするか？木を植え替える時の植え替えられた木はどうなるのか。安全性、管理は誰かするのか
- ・植える場所(広さ・スペース)によって木の種類を選ぶ。低木、高木など
- ・落葉樹の落ち葉は金貨です。菜園をする人に分けてあげて下さい(有料にしたなら市の収入になりますよ)

Q4:あなたがやってみたい, 持続可能な街路樹マネジメントは、どんなことですか？

- ・落葉集めのその後を考えてみたいです。また、木のことを考えた適材適所の再生
- ・十分な緑地帯の中に街路樹がある風景になればと思う
- ・周辺にごちゃごちゃ植えないほうがいいと思う
- ・ふるさと納税や街路樹についてオーナーシップを持てる仕組み、樹木についていろいろな考えを持っている子方がいることを知っておくこと
- ・ネーミングライツによる企業之力(費用、人材)の活用。ふるさと納税を活用した地域外の人や企業之力を借りる
- ・地域の公園でマルシェをしています(60数回)、そこで庭造りコンテストを企画しています。そのことが地域の街路樹育てに繋がっていけばと思います
- ・みんなが守りたいと思える街路樹のある風景をつくって、愛着を少しずつ増やす。その結果、公民連携にて行政と市民での維持管理を実現させたい
- ・樹木を設置すべき場所や設置する樹木の種類を話し合っ決めてみたい
- ・個人、地域にとってメリットのあるような取り組みが導入できれば積極性のある街路樹元利ができるのではないと思う
- ・「ネーミングライツ」的に街路樹を「我が家の木」とする、手近な街路樹の「見守り、簡単な世話
- ・落葉のコンポスト、地縁コミュニティによる管理
- ・愛着がわくように自分の木、家族の木を置いてその人たちが整備する街路樹を置くこと
- ・掃除
- ・市民住民参加型システム
- ・管理がしやすい樹木に植え替える、しかし、すべてを管理しやすい樹木に植え替えるのではなく、ラッパイチヨウのような名物になる木も織り交ぜながら植え替えていくことがいいと思う
- ・樹木の管理だけではなく、未来の道具を使ってクリアする。ゴミを再生して人のためになる、そんなこと
- ・街路樹の取り組みの歴史を伝えていきたい
- ・地域での活動の中で、次世代に繋げていく
- ・思い切った樹種の変更
- ・落葉の堆肥化など、本来ゴミとして処分するものを有効活用できる方法を調べてみたい
- ・できるだけパブリックコメントに参加できればと思い、常緑高木と落葉高木を交互に植える型を作られればと思います
- ・低木の樹木を植え替える時の活動
- ・萌芽再生により地域の人でも維持管理のできる街路樹づくり
- ・落ち葉が宝物になるように
- ・地元のシンボルツリー→愛着を持って育てられる。小さい頃から木にかかわる。地元の人が簡単に安全に管理できる。木に名前をつける権利
- ・植物の命のことなどを子供の頃から教えるといいな
- ・私は東陵高校のけやきの落葉を頂いて畑の堆肥を作っています。(近い方がはきよせて下さり、必要な私がもらっていく形ですが)